

新瀬戸内市立図書館設計者選定プロポーザル講評

■ 審査講評

敷地中央部の公民館を活かしながら図書館を設計しなくてはならないため、敷地全体をどのように利用するかについて、様々な提案が寄せられた。公民館の西側はもちろん、南側や北側に図書館を配置する案もあったが、最も多かった提案は北西側を利用した L 字型のプランであった。

一次審査では、提出された 41 案を 1 案ずつ審査員が相対的に見て、新図書館に求められているテーマへの理解度、公民館との連携、子どもの利用への配慮、郷土博物資料と図書館資料の融合展示、にぎわいと静かな居場所の計画、駐車場の位置、動線の処理などの視点から評価を行い、5 者を選出した。結果的に 5 者とも、北西側を利用した 2 階建ての L 字型のプランが選ばれた。

二次審査は、公開のヒアリング（提案説明 15 分、質疑応答 15 分）を行い、その後非公開で協議を行った。瀬戸内市では初めてとなる公開ヒアリングには、市内から 30 名、市外からも 20 名の参加があるなど、内外からたいへん高い関心が示された。5 者とも熱意あるプレゼンを行い、審査員からの質疑にも誠意をもって答えていただいた。非公開の審査会では様々な視点から協議を行い、最優秀者と優秀者を特定するに至った。

■ 最優秀者：香山壽夫建築研究所

香山壽夫建築研究所の提案は、まちの広間として、また永く愛される美しさを持った図書館をシンプルな形態操作により提案している。既存の公民館とのつながりや連携、「せとうち発見の道」と題された郷土資料への分散配置、にぎわい空間と静寂空間とのゆるやかなグラデーションなど、たいへん魅力的な空間が丁寧に計画されている。

また、煉瓦積の公民館に合わせた懐の深いアルコーブの煉瓦壁やオリーブの庭の列柱廊、暗転も可能な多目的ホール、耐震設計への配慮など、よく練られた質の高い提案として高い評価を得た。

一方、北側の読書テラスのセキュリティ、2 階メイン通路から外れた喜之助人形の展示場

所、吹抜けに面したヤングアダルトの音の問題などが指摘されたが、今後設計を進めていくうえで十分に再検討が可能だと判断され、最優秀者に特定された。

■優秀者：k w h g アーキテクト

k w h g アーキテクトの提案は、図書館がまちのハブとしての文化的な拠点となることを提案している。1階に多目的ホールや閉架書庫・収蔵庫、管理諸室をまとめ、2階に図書館の開架スペースをワンフロア的に集約し、1階のオープンスペースから3階ロフト的な屋根裏広場までの3層吹き抜けの空間が貫いている計画である。

南西側のライブラリーガーデンと視覚的につながる大屋根のかかった大縁側、にぎわいの中心となる1階のソーシャルテーブルの提案はたいへん魅力的であり、新しい図書館づくりへの熱意が感じられ、高い評価を得た。

しかし、既存の公民館とのつながりや郷土資料展示への提案が希薄であり、リアス式書架配置など囲まれた開架スペースへの具現性について懸念が示され、残念ながら最優秀者には特定されなかった。

■その他の提案（50音順）

今村雅樹アーキテクトの提案は、「せとうちビブリオプラス」と題した図書館像を示し、大屋根の下に広がる「広場空間」や、瀬戸内市らしさを牡蠣殻をモチーフとした格子屋根で表現するなど、その独創性と意欲的な取り組みは高い評価を得た。

また、環・環境デザイン共同企業体の提案は、「人と人がつながる図書館」という理念のもと、「“しま”からはじまることづくり・ひとづくり・まちづくり」という図書館指針を掲げ、ユニークな構造と配置計画で新たな公共空間を創造しようとしている点が高い評価を得た。

徳岡設計の提案は、「暮らしに生き、地域に育つ図書館をつくる」という理念のもと、様々な市民の居場所を多様に配置する工夫が凝らされている点、また、環境や安全に配慮した建築計画などが高い評価を得た。

しかし、三者とも、新図書館に求められているテーマへの理解度、図書館全体のにぎわいと静寂の空間整理、図書館資料と郷土博物資料の融合的な展示手法、機能的かつ快適な空間の実現と稼働率を高める具体的な方策について、最優秀者の提案が相対的に優位であると評価されたため、残念ながら最優秀者には特定されなかった。

担当部局

瀬戸内市 教育委員会 社会教育課 新図書館開設準備室
〒701-4392 岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓4911番地
電話：0869-34-5607 FAX：0869-34-4790
Eメール：setouchilib@city.setouchi.lg.jp